



心豊かに育ちあう

沢の子

令和7年度 重点目標

“すすんで考え学びあう、  
笑顔あふれる”  
子どもの育成

余市町立沢町小学校 令和7年9月30日(火) 第6号

## 後期に向けて

校長 森木 真也

10月は「神無月（かんなづき）」。

旧暦で使われていた、季節の移り変わりや風習にちなんだ（現在の暦と約1ヶ月のずれがある）月の呼び方です。日本中の神様が島根県の出雲大社に集まっているということです。出雲以外の日本各地では、神様がいなくなってしまうと言われています。ですから、文字通り神様のいない月ということで「神無月」と呼ばれるようになりました。とりわけ、二十四節気の寒露の頃に境に五穀の収穫もたけなわになり、農家では繁忙を極め、山野では秋の色彩が色濃くなり、紅葉の美しい時を迎えます。1年を通して、学習や運動に適した季節です。また、読書や自然探索なども盛んに行われます。

では反対に、神様が集まっている出雲地方では、この10月を何と呼んでいるのでしょうか。神様が集まっているのに、「神無月」とは呼べないはずです。ですから、出雲地方だけは、「神無月」と反対の「神在月（かみありづき）」と呼んでいるそうです。同時に、姿の見えない神様がどこを通られるのかわからないため、誤って神様を傷つけるようなことがあってはならないという気づかいから包丁などの刃物を使わないようにという言い伝えがあったそうです。

さて、今年は昭和100年となります。この100年の間に革新的に発明されたものが数多くあります。その中でも有名なエジソンを題材にして全校朝会で、“やり続けること”について話しました。エジソンの三大発明といえば、蓄音機・白熱球・映像機です。どれも昭和の時代に進化を遂げ、携帯電話の中で当たり前にな生活の中に根付き活躍し続けているものばかりです。昭和の進化の元となったエジソンは、白熱球を開発するまでには1万回の実験を行ったと言われています。そして、その実験に対してエジソンはインタビューで「私は失敗したことがない。ただ、1万通りの、うまく行かない方法を見つけたただけだ」と話し、「天才とは、1%のひらめきと99%の努力である」と続けます。

明日からは後期の活動が始まります。本日、通知表が配られました。前期を振り返り、これから“やり続けること”に挑戦して欲しいという励ましの意味を込めて子どもたちに話しました。学習発表会の取組と同時に、地域学習（ふるさと学習）のまとめにも入ります。北海道はまだ開基156年と、出雲地方に比べると歴史は浅いのですが、沢町小学校は北海道の歩みをと共に年月を重ねてきました。古き良き沢町や余市町を発見し、ふるさとの良さを感じ取れる学習のまとめとなることを願っています。地元の施設見学や体験を通して、感じ取ったことをご家庭でも話題にできたら学習にも一味違った視点を与えてくれます。

9月までの前期には保護者・地域の皆様のご理解とご協力をいただき折り返し地点を迎えることができました。後期も、これまで同様に110名の子どもたちをどうぞよろしくお願いいたします。